

# 伝えられない思い



神奈川県 湘南ゼミナール中川教室 小学5年

高橋 凌

第5回日本語大賞 小学生の部 優秀賞 受賞作品

伝えられない思い

神奈川県 湘南ゼミナール中川教室 小学五年 高橋 凌（たかはし・りょう）

四年前の十月七日からぼくは、おばあちゃんに会えなくなっていました。その時ぼくはまだ一年生でした。その日の朝起きると、お母さんがとつ然「パパ死んじゃったよ。」と言ってきました。ぼくは何が起こったのか全くわかりませんでした。病気が重くなっていて入院している事は、わかっていただけれどやっぱり信じられませんでした。

おばあちゃんは、ぼくに色々な事をしてくれました。例えば、おばあちゃんとおもちや売場の前を通ると、「ミニカー買ってあげようか。」とおばあちゃんからおもちやを買ってくれました。もちろんぼくからたのんでも買ってくれました。ぼくは、おばあちゃんにおこられた事もないし、おこっている所も見つた事はありません。

ぼくはこのように、小さいころからずっとおばあちゃんにあまえていました。ほかに、夜ごはんを作ってもらったり、お風呂に入れてもらったりしていました。なのにぼくは、ちゃんとお礼を言っていないませんでした。むしろふつうのように思っていました。

ある日病院におみまいに行くと、おばあちゃんが車いすに乗ってぼくの所に来ました。かなり病気が重くなりました。その時は、ふつうにしゃべったりしていたし、また会えると思っていたけど、このおみまいがおばあちゃんとの最後の日になってしまいました。

あとからおばあちゃんに感謝の言葉を伝えていないことに気づきとても後悔しました。「具合の悪い時もぼくにやさしくしてくれてありがとう。」などという言葉がぼくの中にあっただのに、なぜその言葉を伝えなかったのだろう。と今は不思議に思います。

感謝の言葉を伝える事は、数秒で終わるとても簡単な事に思えるけど、実際は勇気の必要なむずかしい事だとぼくは思います。それも、いっしょにいる時間が長く親しい人ほどむずかしいのかなと思います。

これからは、悔いの残らないように、その場で勇気を出して感謝の言葉を伝えるようにしていきたいです。